

# 中執ニュースレター No.3

2005年4月1日発行

東京農工大学職員組合 中央執行委員会

## 今月号の内容

職員の就業条件と労働環境の改善に向けて・・・	1
第3回中央執行委員会の報告・・・・・・・・・・	1
「お花見会」と「野草を食べる会」のお知らせ	2
職場代表者の訂正・・・・・・・・・・	3
退職者歓送会の報告	3
退職者からのメッセージ・・・・・・・・・・	3
退職者へのエール・・・・・・・・・・	7
3月の活動・・・・・・・・・・	8
編集後記・・・・・・・・・・	9

## 職員の就業条件と労働環境の改善に向けて

2005年春の賃金交渉で、自動車、電機、鉄鋼が順調な回答を得たのに対して、人事院は国家公務員の基本給一律5%引き下げを検討するなど、労働条件の悪化が懸念される事態となっています。本学職員の給与については、すでに国家公務員教育職(一)の1級(教務職員)の俸給表が消滅したこと等により、大学独自の俸給表で運用され始めています。これまで以上に、賃金に対して強い関心を持つ必要があります。

中央執行委員会は4月から5月にかけて、すべての職場で職員の就業条件と労働環境の改善に向けた討議を行い、その結果を踏まえて、6月に部局長、学長との団体交渉に臨みます。全職場での討議をお願いします。

## 第3回中央執行委員会の報告

3月24日に開催した第3回中央執行委員会で、2005年春闘の方針を決定しました。就業条件と労働環境の改善に向けた要求案を作成し、すべての職種、職場での討議を経て、6月に学長交渉を行うこととしました。

今年度は、組合員の拡大に積極的に取り組むため、次の2点について重点的な検討を行いました。

組合費の値下げ， 組合加入促進キャンペーンの実施

組合費の値下げについては、前執行委員会での討議を踏まえ、職種別階層別一律料

金制を基本にした値下げ案を検討しています。また、組合加入を促進するため、4月には様々な加入促進イベント「花見の会」（4月14日（木））、「野草を食べる会」（4月20日（水））を予定しています。未加入者に対して、積極的に加入を働きかけていきます。

その他の議題は次の通りです。

1. ペイオフ対策について、2. 書記の雇用契約について、3. 家畜病院研修医の雇用について、4. 府中キャンパス中央緑地帯の池周辺整備ボランティアについて、5. 府中 - 小金井キャンパス間の交通費問題

書記さんの勤務体制が少し変わります。お昼休みなどに是非お立ち寄り下さい。

平塚信子さん

小金井事務室 月・火・木・金

府中事務室 水

勤務時間 10時～15時

江原洋子さん

府中事務室 月・火・水・木

勤務時間 12時～15時

## 「お花見会」と「野草を食べる会」のお知らせ

「お花見会」と「野草を食べる会」を下記のように開催します。「お花見会」はお花見とバーベキューを、「野草を食べる会」は野草の天ぷらやおひたし、ごま和えを準備しています。法人化で変わったことやわからない点などを話しながら、春の一夜を楽しみませんか。組合員拡大キャンペーンの一環として行いますので、非組合員の参加も大歓迎です。お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

「お花見会」

日時：4月14日（木）18:00～20:00

場所：FSセンター管理棟中庭（府中キャンパス）

会費：500円（組合員）

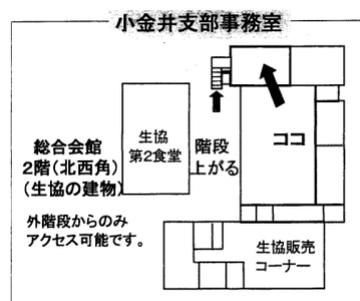


「野草を食べる会」

日時：4月20日（水）17:30より

場所：小金井地区組合事務室（小金井キャンパス）

会費：500円（組合員）



## 職場代表者の訂正

ニュースレター 3月号でご報告した府中キャンパスの職場代表者に一部記載漏れがありましたので、訂正いたします。

### 【府中支部】

(生物生産)大川泰一郎さん、(応用生物1)未定、(応用生物2)辻村秀信さん、(環境資源)堀江勝年さん、(地域生態1)大里耕司さん、(地域生態2)里深文彦さん、(獣医)田中知己さん、(FSセンター)島田順さん、(図書館)小林浩樹さん

## 退職者歓送会の報告

3月17日(木)に、農学部生協の喫茶オリザで退職者歓送会が行われました。3月いっぱい退職される、沖愛子さん、森脇敦子さん、久保徳継さん、平田謙治さんの4人の方をお招きし、久野中執委員長の乾杯で始まり、和やかな雰囲気の中で会話が弾みました。退職者のみなさんと同世代の方々からは、昔のあの頃のことと、



苦労話や武勇伝?などの紹介があり、参加した若い方々にとっても印象に残るお話でした。最後に退職者の4人の皆様からは、独法化に伴い今後の組合が担う役割の大きさに期待が寄せられ、エールを送っていただきました。花束、記念品贈呈に続き、全員での写真撮影のあと、淵野前中執委員長の言葉で締めくくられました。

(記 田中邦明)

## 退職者からのメッセージ

今年度で退職される沖愛子さん、森脇敦子さん、久保徳継さん、他大学に転出される野村正人さんより、組合員へのメッセージをいただきました。

退職の記念に組合から豪華な花束と過分なお饞別を頂戴し、ありがとうございました。在任中はご指導とご協力のおかげで無事定年を迎えることができ、お礼申し上げます。

以下は私家版図書館史です。

試験勉強のために初めて利用した町の図書館は、荻窪にあった杉並区立図書館です。並んで待つうち順番がくると小さな札を渡され、木の床を足音を忍ばせて、番号の机にたどり着く仕組みでした。家の近所に武蔵野市立図書館が新設され、そこにも通いました。貸出を受けようとしたら、その当時既に使われなくなった「米穀通帳」の提示と父兄の押印を求められ、びっくり仰天。

大学卒業後、深川にある勤労青少年センターに勤めましたが、この当時、中卒の少年がまだ多く働いていて、仕事の中に読書会を加えました。事情があってセンターを退職後、世間知らずの若い娘は今で言うストリートチルドレンのストーリーテラーになりたく、図書館司書の勉強を始めました。ここで衝撃的な出会いがありました。ほんの数年前の「米穀通帳事件」が悪夢であったかと思うような、図書館の全く新しい動きでした。

「市民のための市民の図書館」それが日野市立図書館でした。図書館史に必ず登場する伝説の前川館長に直談判し、2ヶ月間の実習が始まりました。図書館は建物ではなくサービス活動であるとの考えで、市役所の2階に間借りをしていた時代です。毎日ブックモビルに乗り、日野市内をくまなく回りました。私の図書館の原点です。

縁あって農工大図書館に職を得ました。

昔の徒弟制度のように先輩から盗むようにして、大学図書館の仕事に慣れていきました。怖かった先輩を生意気にもスッと抜いたように感じたのは3年後です。就職してからも続けていたストーリーテリングの勉強と小児科病棟でのお話会は、この頃終止符を打ちました。

何をしたらよいのか仕事が向こうから目に飛び込んでくるようになりました。新卒の0さんと、「文献の探し方」オリエンテーションを企画したのもこの頃です。すさまじい喧嘩のような館内ミーティング、若き助手の方々との有益な無駄話（その余裕があった）も懐かしいです。

1987年に雑誌目録のデータベース化で、入力バイト学生のまとめ役になり、dBASE2のコマンドを覚えました。これが私のパソコン事始です。データ入力が終了し、目録をプリントすると汎用紙で見づらく、一念発起して、院生のコーチのもとターボCでプリントアウトのプログラムを作りました。その後、カード目録の作成にエディタを使ったり、あれこれの工夫が楽しくなりました。1992年に図書館システムの導入。図書データを初めて作成した時の緊張感は今も覚えています。

1997年、小金井図書館がリニューアルでネット環境が整備されたことから、新入生オリエンテーションの方法を変えました。学部の授業時間を割いてくださいとのお願いを、教務委員会に出席して説明した時の“どきどき感”も鮮明な思い出です。いつ

の間にか、図書館の将来計画委員会で先生方の議論に加わり、農工大図書館の現状と将来展望を話すことができる館員になっていました。

図書館のシステム化から10年後の2002年は、一気に電子ジャーナル、大型データベースを導入しました。導入するまでの過程は、新しい時代を切り拓く高揚感があったように思います。農学部教授会の前座で利用説明会をしたのも昨日のこのことです。学習と研究活動の拠点であり、利用サービスの提供機関としての図書館の出前広報活動でした。

「科学技術情報検索の実際」の編集作業はきついものがありましたが、蓄積してきたものをテキストに投影し、また若い職員と共に新しい知識と技能の修得もでき、楽しい実りのある作業となりました。幸い評判もよく、この作業を通して後輩達の育成にもなったと思います。

退職後は、図書館員を目指した動機であったストーリーテラーを「読み聞かせ」ボランティアで生かせれば、老後の慰みになります。どこかの小学校の窓から「お～い、山姥～」としわがれ声が聞こえたら、お やっとるわいと・・・思いださないよね～

2005.03.31 図書館卒業 沖 愛子

#### 定年退職を迎えて

先日は、お忙しいにもかかわらず送別会を催していただき、又、お饞別や、素敵な花束をいただきまして、ほんとうにありがとうございました。いただいた花束の中に桜の枝があり固い小さなつぼみがついていましたが、段々つぼみが開き小さなかわいらしい花が咲いています。葉桜も楽しめそうです。

私は、1967年6月に非常勤職員として府中地区の図書館に採用され、この3月小金井地区で定年退職を迎えることになりました。長い間多くの方々いろいろな教えていただいたり、大変にお世話になりました。ありがとうございました。

就職した当時組合活動は活発で、事務系職員も多く組合に参加していました。図書館は全員が組合員で積極的に組合活動をしている方もいらっしゃいました。1968から69年には、全国的に学園紛争がおり農工大でも農学部本館に学生がたてこもったこともありました。このような大学紛争にたいして1969年には「大学の運営に関する臨時措置法」が提出され、全国的に法案の成立反対運動が展開されました。当時の組合のスロ - ガンには、「大学の民主化」、「大学の自治は全構成員（学生も含む）のもの」といったものもありました。

この時期の組合活動を通じて、大学の他の職種の方々と知り合うことができ、大学が多くの職種の人達によって成り立っていることを実感しました。異なった職種の相互理解を深めることができるのが、組合の大きな働きだと思います。

法律は成立し、文部省の大学への管理統制は強化されていったのでしょうか？ 事務職員は、ほとんど組合に加入することもなくなっていきました。組合活動も段々と困難になってきました。私も全体が活動している時は皆に一緒につられて動いていましたが、自分から働きかけていくこともせずに退職の時を迎えてしまいました。

府中地区に20数年、小金井地区に10年働いていたことになりましたが、この間、電子情報環境の進展に伴って、図書館のあり方も大きく変化してきました。特にこの6,7年の変化は加速的で、仕事に追われる日々を過ごしてきました。

図書館は、もともと、仕事量に比べ定員が少なく多くの非常勤職員、パート職員、学生アルバイトの方達の力によってささえられてきました。この3月に、3人が定年退職しますが、人件費を抑えるということで、そのあとの補充は、定員1名とパート職員2名ということになりました。後に残る図書館職員の方達の負担が、大きくなっていくことになりそうです。学生や、教職員等利用者の要求に十分応えることのできる図書館の運営は、専門性を身に付けた安定した図書館職員集団によって継続的になされていく必要があると思います。今後、職員の減少や、仕事の外注、派遣職員などが増えていくことになると、教育・研究環境を十分にささえていくことが可能かどうか疑問です。

特に法人化後、大学全体に働く環境は、厳しくなっていますし、これからも大変になっていきそうです。困難な時期ではありますが、「組合員個人」と「組合という組織」両方が一緒になって、職場のいろいろな問題をとりあげ労働環境を少しでも改善していくことに向かっていくことができれば.....と思います。

小金井女性委員会の方からも、お餞別をいただきましてありがとうございました。

2005.03.25

小金井図書館 森脇敦子

## 定年退職にあたり

私は昭和38年3月に農学部職員として採用され、九州片田舎から来た初めての東京は、見るもの聞くもの全てが驚きでした。（恥ずかしくて言えませんでした。）その後、直ぐに職員組合に加入したように記憶します。

当初、本学での生活環境に期待と不安が入り交じりましたが、案ずるより産むが易しで、周りの職員の方々は大変親切で、困った時は色々相談に乗って貰い、また恒例の催しであったキャンプ、ハイキング、運動会等に参加し、そこで他部局の多くの人達と親睦を図れたことは大変楽しくまた心が癒されました。

当時、組合事務室が農学部本館1階の玄関脇で、近かったので気軽に顔を出す機会が多くなり自然と組合活動に関わってきました。

昭和40年代になった頃から、学内の職場集会や、都心での集会・デモに参加することが多くなり、特に印象として残っていることは、平日の勤務後、横須賀港での集会に参加した折り、帰り東京駅までは来たものの終電に乗り遅れ、八重洲口付近で数

名の人達と始発電車が出るまで間、寒い夜を明かした事が思いだされます。その後、周りの人達は歯が欠けて行くように組合を次第に抜け、私自身も組合活動から疎遠になり、その間、他組合員の皆さんに多大な負担を掛けた事が申し訳なく、また心苦しく思っております。今はそのことを反省し定年を迎える事になりました。

大学も法人化されたことで、職員組合も従来と違った新しい組織となり、その担う役割も重要になってきていると思います。今後、職員組合が更に充実発展して行くことを陰ながらお願いいたします。

最後になりましたが、これまでの長年に渡り多くの良き諸先輩をはじめ、同僚、後輩の方々から暖かくご指導とご厚情を賜りましたことを、心から深く感謝しお礼を申し上げます。

久保徳継

### 組合員の皆様

私はこのたび東京農工大学工学部を退職し、4月1日より学習院大学文学部に移ることになりました。15年間にわたる農工大在職中は公私にわたって多くの方々にお世話になり、感謝の言葉もありません。15年も在職しながら、組合員であった期間は長くはないのでじつに恥ずかしい限りですが、ひとこと皆様にメッセージを述べさせていただきます。

国公立系大学、私立大学を問わず、大学をめぐる教育・研究・労働環境がどこも厳しいことはいまさら言うまでもありません。ただ、だからしょうがないではないか、と言っていればますますその環境は悪くなるばかりです。特に工学部はそうした環境を守り改善していくべき教授会がほとんど機能していない現状は憂えるばかりです。大学には労働者として様々な立場の人々がおり、また教育・研究に関しても研究領域・教育方法・業績評価の異なる人々が働いています。しかしこの大学はそうした異質さを無視することこそが「合理的」であるとか「科学的」であると無邪気に信じているように思われます。わたしの職場は弱肉強食がモットーの「小金井サファリパーク」です、などと半ば冗談で言ったりもしているのですが、そんな現状は職員にも学生にもいいはずはありません。学内組織にチェック機構がないに等しい今、教職員組合の果たすべき役割と責任はますます大きくなるし、大きくならなくてはならないと思います。ぜひ皆様のお力で、東京農工大学がよりよい教育・研究機関となるように祈っております。

野村正人

### 退職者へのエール

既に退職されている元組合員の泉さんから今春の退職者に向けたメッセージをいただいておりますので、ここに掲載させていただきます。

2月初旬、組合書記の平塚さんから、森脇さんと沖さんが今年の3月末に定年退職されます。組合としては3月4日に送別会をするので、泉さん出席して挨拶してほしい。という話がありました。私は3月2日から5日まで所用で留守しますので、残念ながら送別会に出席することができません。誠に申し訳ありませんが、気持ちを記しましたので、悪しからずご了承ください。

お二人は本学図書館に30数年勤められ、3月末で大学を去られるということで、いろいろな思い出がごありのことと思いますし、いいきれない侘しさがあるのではないかと思います。

私は本学に24年間在職しました。この間、お二人には、いろいろお世話になり、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

私が退職して17年が過ぎ去り、大学も様変わりしたことと思いますが、大学の図書館業務は、教育・研究を支える大きな業務であり、その本質は変わっていない...と思っています。お二人が長年、図書館業務を通じて、大学の教育・研究の民主的発展に寄与してこられた業績は、表にはでないものの大きな功績だ...と私は思っており、心から敬意を表す者です。

私の体験ですが、在職中は心身に緊張感があり、疲れと感じなかったことでも、退職後は気持ちの変化からか、ちょっとした事でも疲れを感じるようになりました。健康を保つために、なにか趣味を見つけて取組まれることをお勧めいたします。

私は、未だにスキーを続けています。仲間内では「妖怪」だの「おばけ」だの言われていますが、ゲレンデを元気で滑るため、毎日約1時間、自転車に乗っていますし、時折、3～4時間遠乗りします。これが健康につながっているようです。

今後、お二人とは街中でお会いすることが多くなると思います。その時には、気やすく話しかけてくださるようお願いいたします。

お二人のご健康とご多幸を衷心より祈念し、簡単ではありますが、ご挨拶とさせていただきます。

泉 順太郎

## 3月の活動

- 3/1 小金井支部職代会
- 3/2 組合費検討WG
- 3/8 組合費検討WG
- 3/15 都大教第9回幹事会
- 3/16 人事課・家畜病院への申し入れ
- 3/17 退職者歓送会

- 3/19 全大教単組代表者会議
- 3/20 全大教第35回臨時大会
- 3/22 書記局員会議
- 3/24 第3回中央執行委員会

#### 編集後記

もう10年も前になりますが、国立の試験研究機関から大学に移ってきた時、とても違和感を覚えたことの一つに、大学内で事務職員の方や技官さんから「先生」と呼ばれたことがあります。同じ大学という組織の中で役割を分担して教育研究というサービスを社会に対して提供している仲間なのに、なんで「先生」という敬称で一方が他方を呼ぶような構造があり得るのだろうか、と不思議だったのです。

大学法人化後の新体制発足にあたり、われわれの組合の名前が「教職員組合」から「職員組合」に変わったことは皆さんもご存知だと思います。この名称変更の意味を私なりに考えてみると、それまでの教員（教官）と職員（事務官、技官など）とを分けた考え方をやめて、みな職員として、対等な仲間として、やっていこうじゃないかという宣言ではないかと思うのです。そしてこのことは、労働組合としてはごく当たり前の、しかし大学社会ではなかなか勇気の要ることとして私は高く評価したいと思います。

ところが、長年の習慣はそう簡単には抜けないもので、我が中執でも、まだ「先生」と「さん」が共存しているのが現状です。実は役員をしている学会の理事会で、「さん」づけ呼称を提案し1年間実行してきました。言うは易し行うは難しで、初めはなかなか気恥ずかしいのですが、慣れればなんということはないこともわかってきました。

この後記に書いてしまったことを弾みにして、今度の中執で提案してみようと思っています。

（土屋俊幸）

発行 2005年4月1日  
東京農工大学職員組合中央執行委員会  
TEL: 042-367-5797 (府中)  
042-388-7202 (小金井)  
E-mail: kumiaif@cc.tuat.ac.jp